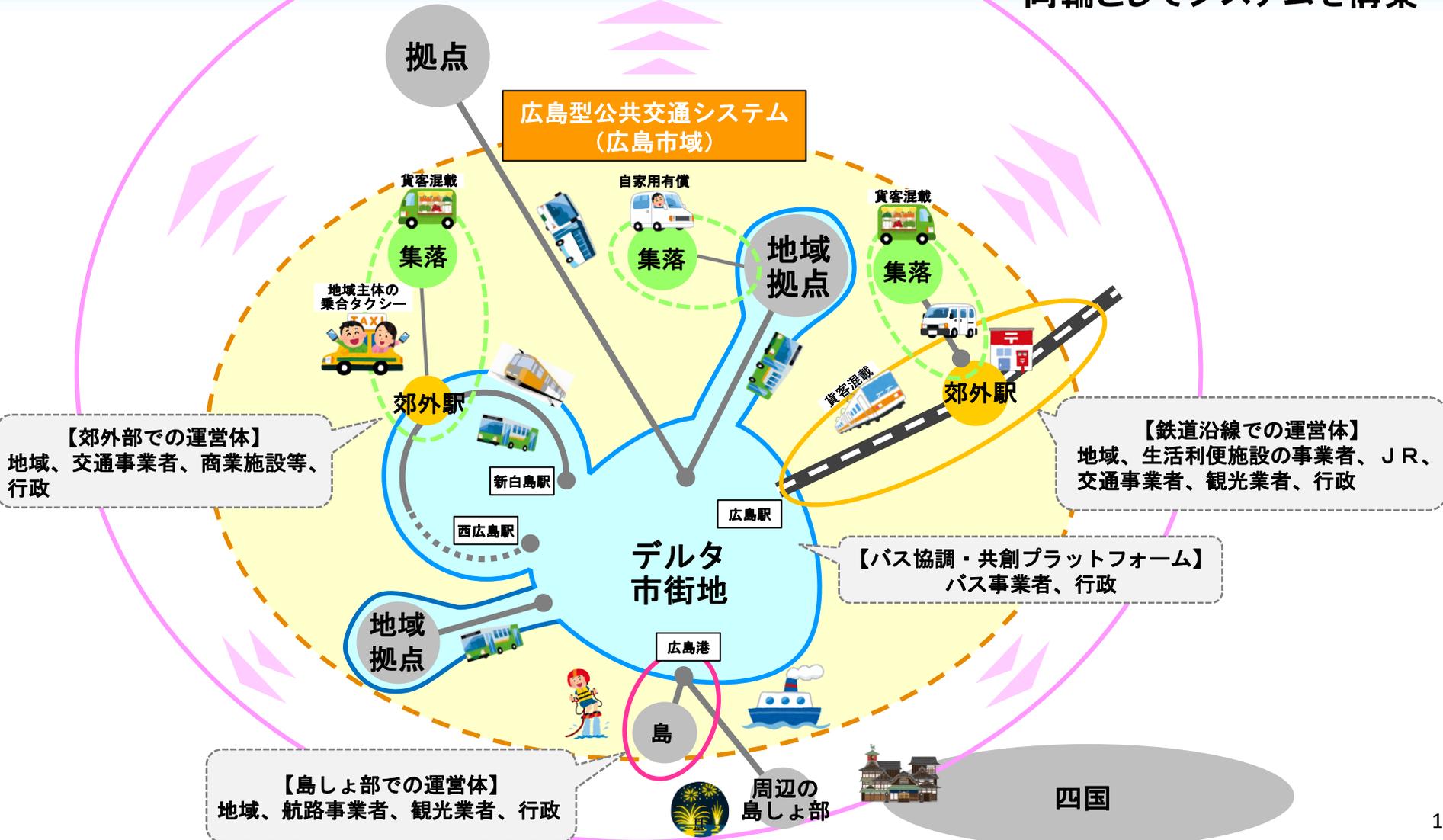


広島広域都市圏

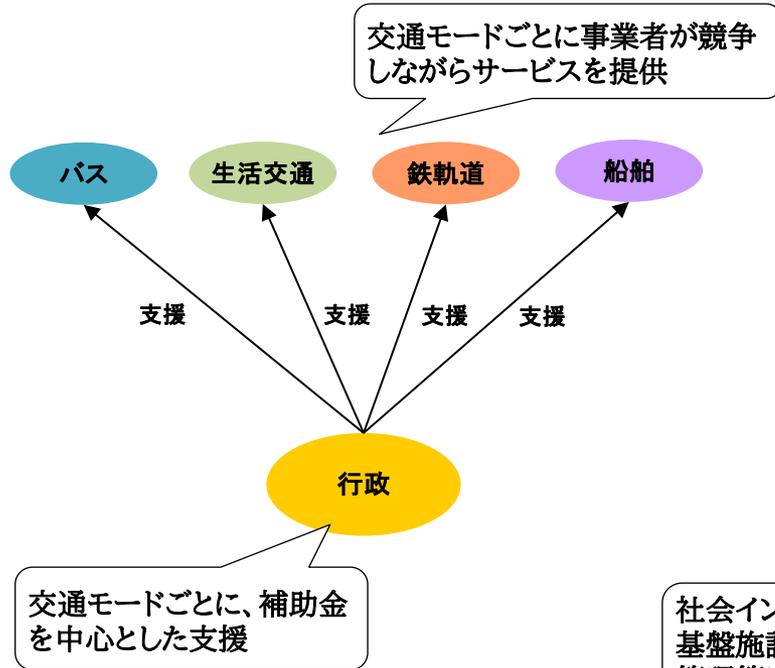
ヒト・モノ・カネ・情報の好循環

ハード整備とソフト施策を
両輪としてシステムを構築



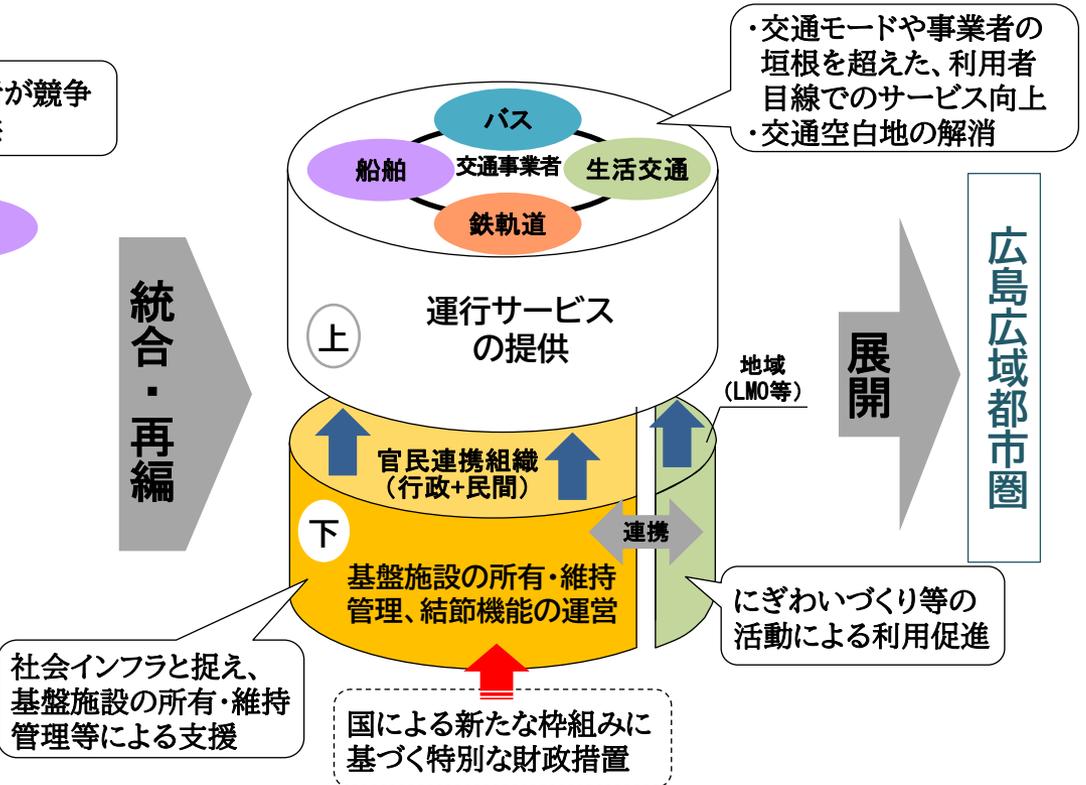
現状の体制

(平面的な連携)



広島型公共交通システムの確立

(上下分離による立体的な連携)



短期

- ・乗合バス事業共同運営システム
- ・似島航路の維持
- ・生活交通の確保



中期

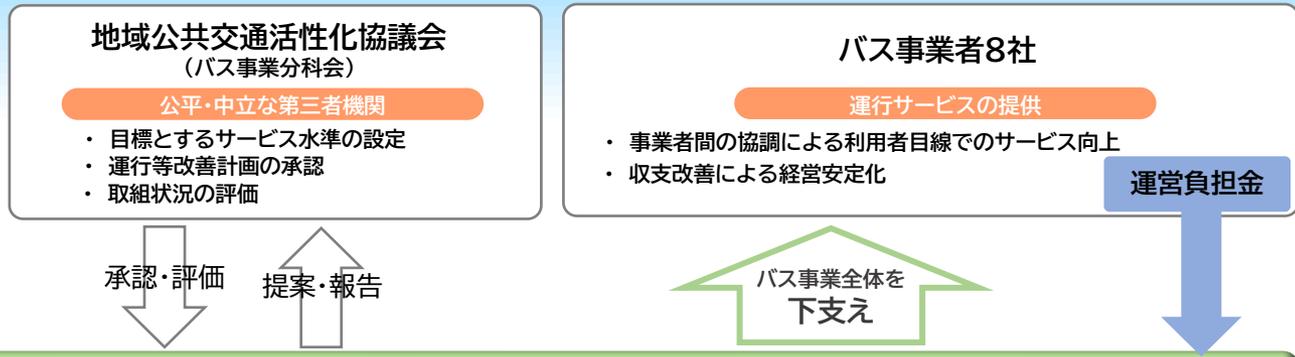
鉄軌道に順次拡大



長期

共通の運賃制度の下で
一つのシステムとして連携・統合

乗合バス事業共同運営システムに係る運営スキーム



R7.4 事務所を開設し実質的な稼働開始

(一社)バス協調・共創プラットフォームひろしま



全体最適化に資する多彩な共同事業を推進

<p>路線の最適化</p> <p>路線の重複の解消やフィーダー化、ダウンサイジングなど</p>	<p>運転手の安定的確保</p> <p>離職防止と採用強化のための労働環境の改善など</p>	<p>利便性の向上・利用促進 (シームレスなサービスの実現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バス停の待合環境整備やバスロケーションシステムの高度化など ・ ゾーン運賃やダイナミックプライシング等の新たな運賃制度の導入や乗継割引の拡充など
<p>リソースの共有化</p> <p>EVバス車両や車庫等のインフラ資産の整備・管理</p>	<p>新技術の導入</p> <p>バスの自動運転化、AIを活用した事務の効率化など</p>	



当面の課題

プラットフォームの組織運営や共同事業は、国の補助制度を活用しながら、主に市・事業者からの運営負担金等により実施

➤ 今後、組織運営や共同事業を円滑に実施して行くためには、官民共同の新たな取組が支援対象となる国による新たな財政支援の創設や制度改正が必要